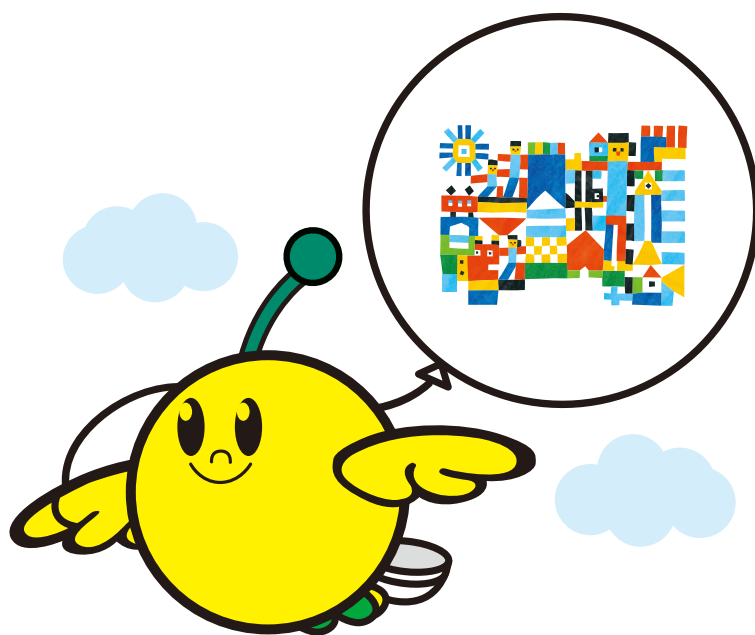


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
キビタン

福島県
〔令和3年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から10年
余が経過し、4月からは第2期復興・創生期間がスタートしました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心か
ら感謝申し上げます。

震災と原発事故からの復興に取り組む福島県では、帰還困難区域の一部地域でも避
難指示が解除されたほか、JR常磐線が全線で運行を再開し、福島ロボットテストフ
ィールドや東日本大震災・原子力災害伝承館等の新たな拠点施設が完成するなど、着
実に復興への歩みを進めてまいりました。一方で、新型コロナウイルス感染症が世界
各国で猛威を振るう中、避難地域の復興・再生や廃炉・汚染水対策を始め、風評と風
化の問題、急激な人口減少、令和元年東日本台風等災害からの復旧など、本県はいま
だ多くの課題を抱えております。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、国内外の皆様
からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死
亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の子ども
たちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させてい
ただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、ふくしまの明るい未来を切
り拓いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

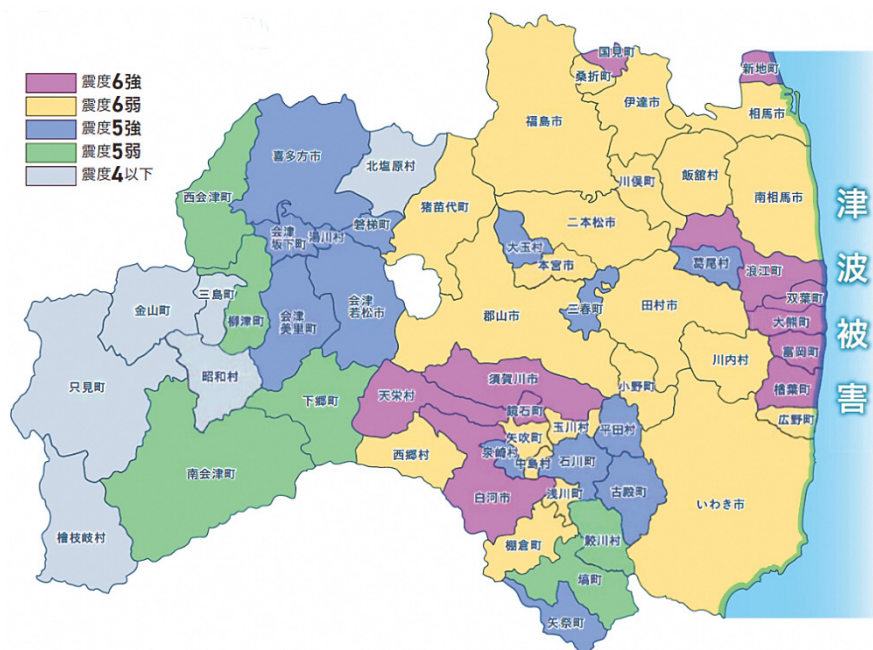
令和3年8月

福島県知事 内堀 雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

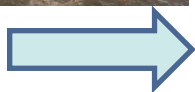
平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」（東日本大震災）は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。東京電力福島第一原子力発電所でも事故が発生し、未曾有の複合災害となりました。



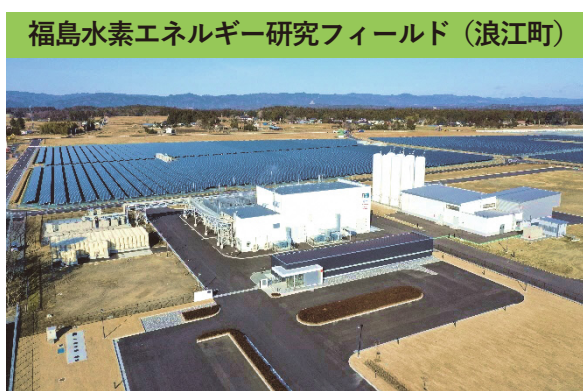
地震や津波等により多くの尊い命が失われ、10万棟近くの住家が全半壊しました。また、原子力災害の影響で県土の1割を超える区域に避難指示等が発出され、多くの県民がふるさとを離れての生活を余儀なくされました。

震災から10年余が経過した今、公共土木施設の復旧や避難指示の解除が進むなど、本県の復興は着実に進展しています。一方で、いまだに3万人を超える方々が避難生活を続けておられるほか、被災者の生活再建、根強く残る風評と風化の問題など、多くの課題を抱えています。



被災時と
復旧・復興事業完了後の様子
(JR広野駅東地区)





出典：NEDO

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

東日本大震災では、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた土地から長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験によって、心に大きな負担がかかっています。

こうした中、福島県では、平成２３年８月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を開設しています。

これまで、国内外の皆様からあたたかいご寄附をお寄せいただき、多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えております。

○ 寄附の状況（令和３年３月３１日現在）

寄附件数 19,329 件 寄附額 6,950,321,049 円

○ 被災孤児、遺児（令和３年３月３１日現在）

- ・ 孤児：２４人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：１８０人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしまこども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

(1) 月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000 円、遺児：20,000 円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000 円、遺児：30,000 円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000 円、遺児：40,000 円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000 円、遺児：50,000 円）

(2) 一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000 円
イ 小学校卒業時給付金	50,000 円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000 円
エ 高等学校卒業時給付金	300,000 円

4 給付実績（令和3年3月31日現在）

給付実人員 197人 総給付額 650,400,000円

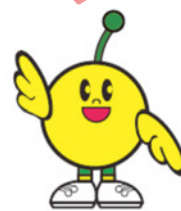
2 「ふくしまこども寄附金」による新たな支援について

平成24年12月県議会において福島県東日本大震災子ども支援基金条例の改正が議決され、震災孤児・遺児の支援に加えて、支援の対象を県内全域の子どもたちへと拡大し、下記の5つの視点から新たな支援を行っています。

〔新たな支援の5つの視点〕

- ① 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- ② 子どもたちの将来につながる取組
- ③ 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- ④ 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- ⑤ 子どもたちの本県復興への参画

次ページ以降で
紹介します





ジャーナリストスクール開催事業

1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興に取り組んでいる個人、団体に対して取材し、新聞としてまとめ、情報を発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、自分の将来の夢や希望を深く考えさせる機会を設けました。

2 事業実施時期

令和3年3月13日（土）、14日（日）、
27日（土）

3 参加者数

小学生7名、中学生2名、OG3名
新聞発表会参観者 保護者約20名

4 事業実施による効果

子どもたちに、復興に取り組む被災者と直接的に関わる機会を提供し、自ら学び、考え、自分の言葉で発信する体験をさせることで、改めて震災に向き合い、復興に向かって踏みだそうとする自主性を支援することができました。

また、子どもたちが作成した新聞を県内外の避難者の方々や県内の各学校に配布することにより、復興に向かって取り組む方々の姿や同年代の子どもたちの活躍を知らせるとともに、ふるさと「ふくしま」の現状や復興の取組を認識したり、福島の未来を考えたりする機会を提供することができました。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課 （TEL：024-521-7404）





子どもを守ろう！見守りサポーター養成事業

1 事業概要

児童虐待の防止を目的に、CAP（Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止）プログラムを活用して、県民に広く児童虐待防止のための教育や啓発を行いました。

2 事業実施回数及び参加者数

実施回数：74回（子ども向け37回、大人向け37回）

参加者数：1,310名（子ども766名、大人544名）

3 事業実施による効果

子どもへの効果として、自分の権利について認識し、虐待等の危険な状況を回避するスキルを身につけることができました。また、相談の大切さについて認識し、孤立化を防ぐことにつながりました。

大人への効果として、子どもの権利や大人の暴力等で傷つく子どもの心の状態を学ぶことで、大人側の言動を振り返り、虐待を防ぐ意識を醸成する機会となりました。

4 お問い合わせ先

福島県こども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）



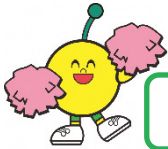
こどもの将来応援事業

1 事業概要

次年度に小学1年生になる子どもの親に対してリーフレットを配布するとともに、中学2年生の生徒に対してガイドブックを配布することにより、進学に関する支援制度等の周知を図りました。

2 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）



ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

1 事業概要

中高校生を対象にしたビブリオバトル（お勧めの本を紹介しあう書評合戦）福島県大会を通して、広く県民に対し子どもの読書活動についての理解の促進のための普及活動・啓発活動を実施しました。

2 事業実施時期及び参加者数

令和2年11月28日（土） 中学生11名、高校生5名 観戦者145名

3 事業実施による効果

ビブリオバトルを通じて中高校生の読書活動への関心が高まっただけでなく、情報発信能力の育成・向上が図られ、読書の大切さを参加者全員で共有しました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）



地域で支える子育て推進事業

1 事業概要

地域特性を活かした自主的な子育て支援や親支援の活動を促進し、地域全体で子育てを支援する機運の向上を図るため、市町村や民間団体の取り組みに対して補助を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

こどもの居場所地域連携支援事業

1 事業概要

「子ども食堂」などの子どもの居場所づくりを支援する民間事業者に対して事業費を補助するとともに、その取組を広報することにより、県内での取組の広がりに繋がりました。

2 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）



医療職種の魅力発信事業

1 事業概要

子どもたちの医療職への関心や興味を高めるため、実際に医療の現場で仕事をしている看護職が小学生から高校生の児童・生徒に対して授業を行うとともに、オンラインで医療職種の魅力を学習できる講義等を行いました。

2 参加者数

対面授業

754名（小学生459名、中学生136名、高校生159名）

Eラーニング

118名（小学生39名、中学生79名）

オンライン講義

113名（小学生39名、中学生74名）

3 事業実施による効果

看護職が講師として児童・生徒に授業を行うことで、生命や性に関すること、看護の仕事、キャリア形成等への理解を促すことができました。

また、Eラーニングコンテンツやオンライン講義を通じて、自宅にしながら医療職への興味を高めてもらうことができました。

4 問い合わせ先

福島県保健福祉部 医療人材対策室（TEL：024-521-7222）



子育て世代包括支援センター機能充実事業

1 事業概要

県内の市町村が運営する子育て世代包括支援センターに助成を行うことにより、支援が必要な家庭の早期把握に努めるとともに、その後のスムーズな支援につなげました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 子育て支援課（TEL：024-521-8205）



「科学の甲子園」福島県大会事業

1 事業概要

科学好きな生徒の裾野を広げることなどを目的として、科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合う「科学の甲子園」福島県大会を実施しました。

2 参加者数

高校生79名

3 事業実施による効果

筆記競技や実験競技等への挑戦を通して、生徒の理数に対する興味・関心を高めるとともに、ものづくりの能力やコミュニケーション能力等の育成に役立てることができました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）



ふくしま保育環境向上支援事業

1 事業概要

すべての子どもにふくしまならではの質の高い保育を提供するため、園舎・園庭の改修やあそび道具の導入等の環境改善に取り組む保育所等に対し、支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 子育て支援課（TEL：024-521-8205）

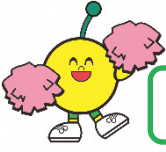
子どもの目を守る健診体制強化事業

1 事業概要

子どもの弱視を見逃さず、早期治療につなげるため、市町村が実施する3歳児健康診査の視覚検査において屈折検査を導入するための支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 子育て支援課（TEL：024-521-8205）



ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

1 事業概要

学校給食における地場産物の活用率は、原発事故に伴う放射線の健康影響に関する不安から大きく下がりましたが、全体では震災前に回復してきています。しかし、その度合いは市町村によってばらつきがあります。

そこで、小中学生を対象に地元の農水産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを広く県民に発信することにより、子どもたちの食べる力の育成や地元の食材に対する理解を深め、地場産物の活用率の向上につなげました。

2 応募点数

13,818点（小学校4,713点、中学校9,105点）

3 事業実施による効果

入賞作品のレシピを掲載したチラシを県内の全小・中学校に配付するとともに、スーパーの店頭や地場産物販売コーナー等に設置し、県民に広く情報を発信することで、家庭における食生活の改善や地場産物の活用促進の一助となりました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）

児童養護施設等入所児童自立支援事業

1 事業概要

児童養護施設や里親の家庭などで育ち、保護者からの経済的な支援が得られない子どもたちについて、就職する際に必要な普通自動車運転免許取得の費用を補助し、子どもたちの自立のための支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県こども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

未来に進もう！こどもの夢応援事業

1 事業概要

児童養護施設や里親の家庭などで育った子どもたちについて、経済的な理由により進学をあきらめることのないよう、進学やその後の生活に必要な費用の一部を給付金として給付し、希望する夢をかなえるための進路選択ができるよう支援しました。

2 お問い合わせ先

福島県こども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）



東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業

1 事業概要

震災と原発事故の記録や教訓を地域や世代を超えて継承する施設として令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館を学習活動に活用するため、県内外の小中学校及び高等学校の児童・生徒が学習活動で訪問する際の費用の補助等を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課 (TEL: 024-521-7404)



寄附をくださった皆様へのメッセージ

給付金をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへの掲載があります。)

いつもご支援していただきまして
ありがとうございます。
コロナでいろいろなことが制限
されていますが、皆様のおかげで
充実した学校生活を送れています。
皆様のお気持ちに心から
感謝しています。

学校 ☒ 小学校・中学校・高校・その他()
学年 6 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへの掲載があります。)

いつも寄附していただきありがとうございます。
私は皆さんの期待に応えようと
思い中学生の頃から頑張ってきた
スポーツで全国インターハイ
に出場できる事になりました。
それもこれも、皆さんのサポートや
ご支援があったからでもあります。
私は一人ではなく、いろいろな人に
支えられているということを感じ、
また、私も他の人を助けてあげたい。
世の中に貢献できる人になりたいです。
これからも、この得意なスポーツを活か
して将来に繋げていきたいと思っています。

学校 ☒ 小学校・中学校・高校・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

こんにちは。私達家族は変わりなく
元気に過ごしております。
震災から10年。悲しかった、くやしかった日々は
少しずつ笑顔に戻りかける一方で
新型コロナウイルス感染症の拡大でまだまだ
気が振れない毎日が続いています。
孫も高校2年生になりました。
コロナ感染対策を取りながら日々の
学習と部活動に励んでいます。
皆様のご支援心より感謝申し上げます。
コロナワクチン接種が多くの人々に行き渡り
一日も早くこれまでの日常を取り戻せるよう
に願うばかりです。

学校 小学校・中学校・高校・その他(祖母より)
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

お世話になっております。
皆様のあたたかいお気持ちに
感謝しております。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

高校2年生になり、クラス替えもありましたが、新しいクラスにもなれ、とても楽しく
過ごしています。あたり前のように楽しく
過ごさせてくれるのは、寄附をくださった
皆さんのおかげだと思っています。
感謝の気持ちを忘れず勉強や部活
を頑張っていると思います。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災は10年になりました。10年
間のご支援いただきありがとうございます。
コロナ禍の中で大学
3年と高3年の2人は病気をなく
元気で学校に通っています。
コロナがいつか収束を迎える
だろうこのような不安いっばい
の中でも皆さんは健康を
気をつけながらこの難関
一糸者に乗り越えましょう。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

10年もの間、御支援して頂き
ありがとうございました。
おかげ様で 学校生活を楽しく、
充実した毎日を送らせていただい
ています。感謝の気持ちを忘れず
将来、社会に貢献できるように
がんばって いきたいと思ひます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附をくださりありがとうございます。
私は今年 受験生です。
皆さんのおかげで 勉強道具や
学習環境に困ることなく勉強が
できています。
志望校合格 に向けて
今後も頑張っていきます。

感謝

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

今まで支えてくださり、ありがとう
ございます。中学に入学してから、
野球部に入部し、みな様から頂
いた寄附金を使って野球の道具等に
使わせて頂いております。スパイクは
すぐにダメになるうえ、高額なので
ほんとに助かっています。
本当にありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災から10年が過ぎ、当時
小学2年生だった私は、今年から
社会人として がんばっています。
御支援してくださった方々に
感謝 しております。これからは
少しでも 恩返しができるよう
努力して いきます。
ありがとうございました。

学校 小学校・中学校・高校・その他(会社員)
学年 _____ 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災の年に産まれた子どもが、
10才になりました。これまでたくさん
方々のあたたかいご支援を受けながら
一年一年過してきました。この先、
目指すものに努力しながら、周りを
支え助け合う人になつてもらいたいと
願っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他(母)
学年 4 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

拝啓
入梅前でも時折真夏日の暑さの如
い日も昨夏同様、心よりお礼申し
上げます。
本県の注んでいる地域です。7月中旬
にも新校生のコロナワクチン接種の
完了が見通して、元の安堵を感じた
進路に関して、
学校の先生や家族の意見等から
本人の気持ちも探れぬまま、よく考えて
後進のない結果を思っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他(母)
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも、支援して頂きありが
うございます。
高校2年生になり、勉強も
難しくなってきた大変ですが
頑張ります。部活も1年生と
同じで茶道部に入り、昨年より
も色々できる事が増えて楽しい
です。
本当にありがとうございます。

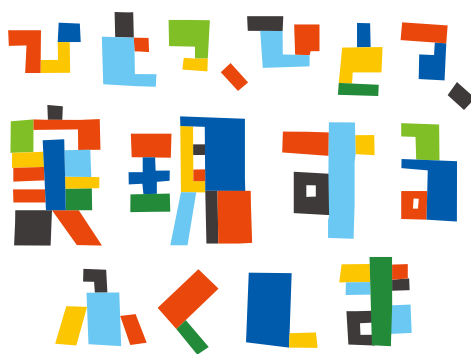
学校 小学校・中学校・高校・その他(母)
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

毎年のご寄附に感謝申し上げます。
息子が大学2年生になり、実家を
離れ一人暮らしをしています。
昨年度からのコロナ禍に伴い、高校の
卒業式・入学式、対面授業、サクル
大学の
活動全てが中止された。本人は、
「どうして俺の時ばかり。」と、不満言を
言っておりましたが、今は、こんな不安定な
状況にも順応し、頑張っています。
親として、何かと心配ですが、本人を応援
していきたいと思っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他(母)
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。



令和3年8月発行

福島県 こども未来局 こども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail:kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県庁ホームページ

[ふくしまこども寄附金](#)

[検索](#)